

「エウレカ」

作 F Oペレイラ 宏一朗

登場人物

山田 女

中村 男

奥田 男

ある夏の終わりの、学校の、学生たちによる戦争が起つている中での、一つの話。
女が一人、机の上の紙に延々と鉛筆で何かを書いている。
しばらく書いては捨て、また書いてを繰り返す。

床には大量の紙。

中村と奥田は、離れて横になっている。

三人は疲れ切っているようだ。

中村 あ。

山田 手を止める。少し中村の様子を伺う。

中村 はじまったところかな。

山田 え。

中村 いやわかんないんだけど。やっぱり気になるよね。

山田 そう。

中村 あ、まあ俺もどっちかって言うとおれなんだけど。

山田 そう。

中村 あ、邪魔した。

山田 ううん、全然。

中村 俺は、その、どっちかって言うか、どっちでもいいんだ。正直。

山田 どっちでもっ。

中村 そう、どっちでも。え、山田はどっち派？

山田 どっち派とかないけど。

中村 え、ない？

山田 ないよ。

中村 そっか。そうだよ。みんなそうだよ。みんなそうなんだよ。そうははずなのに、そうなんだよ。

山田 なに。

中村 ああごめん。独り言。

山田 そう。

中村 まだやっつてるの。

山田 え？

中村 それ。

山田 ああ、うん。

中村 凄いね。

山田 いや、そんなに簡単に終わるなら苦労してないから。

中村 いや、そうじゃなくて、ずっと続けるって根気がさ。

山田 ああ。

中村、手にしたリコーダーを見る。

中村 ああ、こんなことなら告白しとけばよかった。

山田 城ヶ崎さん？

中村 うん。

山田 なんです？

中村 だって、

山田 なに。

中村 まさかこんなことになるなんて思わないじゃん。ずっと平穏な毎日が続くって思うじゃん。

山田 まあそうだけど。

中村 今となつては関係ないことだけど。

山田 それどうするの。

中村 え？

山田 リコーダー。城ヶ崎さんの。

中村 ああ、教室に忍び込んで手に入れたこのリコーダー？

山田 うん。

中村 舐めるんだよ。

山田 え、

中村 なに。

山田 舐めるの。

中村 舐めるよ。

山田 なんです。

中村 なんですって、そりゃあ舐めるよ。リコーダーは舐めるためにあるんだから。

山田 違うよ。吹くためにあるんだよ。

中村 もちろん吹いたりもするよ。

山田 …。

中村 なに。

山田 気持ち悪い。

中村 いや気持ちいいよ。

山田 え？

中村 え？

山田 は？

中村 あと挿したりもするよ。

山田 え、さ、挿すっついでっつ。

中村 それは言えない。

山田 なんですよ。

中村 これは神聖な儀式なんだ。なあ奥田。

中村は、奥で寝ている奥田に呼びかける。

中村 なんだまだ寝てるの。

山田 うん。

中村 山田。起きてよ。

山田 なんですよ。寝かせてあげようよ。

中村 だって、神聖な儀式を分かち合えない。

山田 いいでしょ別に気持ち悪い。

二人、ふいに奥田が生きているか気になる。

山田 あ、大丈夫、息してる。

中村 あ、セーフセーフ。

山田 え、このまま起きないとかないよね。

中村 ないでしょ。

山田 打ち所が悪かったとか。

中村 たぶん大丈夫だと思うけど。

山田 ならいいんだけど。

中村 そうそう簡単に死ぬヤツじゃないって。

山田 まあそうかもしれないけど。でもちよつと心配だよな。

中村、急にぐったりする。

山田 中村？おい。中村。死んだか。

中村 生きてるよ。

山田 知ってるよ。

中村 ちよつと、少しは心配してよ。

山田 だって嘘って丸わかりだし。

中村 なんです。

山田 だって中村別にそんなに巻き込まれてなかったじゃん。

中村 でもちよつとは巻き込まれたよ。

山田 ちよつとでしょ？

中村 痛かったんだから。警官隊の警棒とかも、当たりそうで。

山田 あたつてないじゃん。

中村 いやでも凄かったよ。あんなの海外レベルだよな。ていうかBSのコースの世界かな。どっちも本気つてこ
とだよな。いやあ凄かった。

山田 他人事みたい。

中村 他人事だよ。何言ってるんだよ山田。

山田 でも当事者でしょう。巻き込まれてもいるわけだし。

中村 でも実感無いだろ。

山田 まあそうだけど。なんか大人みたい。

中村 大人じゃないよ。大人だったらよかったのに。大人になったらよかったのに。

山田 必ずしもそうとは言えない。

中村 え？

山田 大人になれたからいいとか、そんなことはないと思う。

中村 何それ。哲学？

山田 そんなじゃないけど。

中村 じゃあ自由研究のテーマ？

山田 違うよ。

中村 え、じゃあ見せてよ。

山田 へ？

中村 自由研究の、どんなの書いているの。

山田 やだよ。

中村 なんで。

山田 恥ずかしい。ていうかまだできてないし。

中村 いつになったら終わるんだよ。

山田 いつかは終わるよ。

中村 いつだよ。

山田 わかんないけど。

中村 いいじゃん、途中ででもいいから見せろよ。

山田 いやだって。完成したら見せるから。

中村 うそつけよ。

山田 ホントホント。

中村 どうせ終わらないんだからやめちゃえばいいのに。

山田 うるさい。

中村 ちえろ。山田って昔から変わってるよね。

山田 そう？

中村 名前は山田花子ってすごい普通なのに。

山田 うん。

中村 あれ、怒った？

山田 怒ってない。

中村 なに。

山田 別に。

中村 本当に？

山田 覚えてないか。

中村 何が。

山田 もういい。

中村 え、え、何が？

山田 もうごめんごめん。

中村 ごめんごめん。怒るなよ。

山田 うるさい。

中村 奥田。ねえってば。ちょっと。助けてくれよ。……あれ、これやっぱり死んでない？

山田 息してるでしょ。

中村 いやでもこんなには起きないのはおかしいって。
山田 奥田。

二人、奥田をじっと見ている。

中村 わっ。

山田 うわっ。

中村 うわびつくりした。

山田 こっちのセリフよ。なんで急に大きな声出すのよ。

中村 起きるかなって。

山田 そういうのなら言ってみてよ。

中村 ごめん大きい声出した。

山田 事後報告かい。

中村 ごめん。でもやっぱり起きないね。

山田 うん。

中村 これはやっぱりあれかな。キスかな。

山田 え。

中村 あるじゃん、ほら、童話とかで。

山田 作り話でしょ。

中村 夢があるじゃない。

山田 それでなによ。

中村 夢を持って、夢を見ている、奥田を制す。

山田 なにわけわかんないこと言ってるの。

中村 山田、お願い。

山田 なにが。

中村 キスだよ。

山田 え？

中村 奥田と。

山田 え、私がするの。

中村 そりゃそっだよ。

山田 なんですよ。

中村 普通こういうのは異性がするものだろう。

山田 なにそのルール。

中村 なあ頼むよ。

山田 やだよ。

中村 え、え、え、待ってよ、じゃあ俺がするの。それはやばいよ。女子のリコーダー舐めて男子にキスしたらそれはもう俺やばいよ。

山田 別にしろって言ってみなさいって。

中村 終わるよ。俺の何かが終わるよ。

山田 え、何おもむろにしようとしてるの。

中村 だってするしかないわけじゃない。

山田 そんなことないと思うけど。

中村 見るなよ。

山田 え？

中村 せめて見ないでくれ。

山田 いや見たくはないけど。

中村 俺のキスで奥田を助けるんだ。

山田 逆効果じゃない？

奥田、起きる。

山田 あ。

奥田 寒、

中村 生き返った。

奥田 え、ん？俺死んでた？

中村 まあ半分。

山田 中村があとちよとどとどめ刺すところだったけど。

奥田 ん？え？あれ、俺、寝てた。

山田 寝てたよ。たっぷりと。

奥田 あ、そう。え、ムジカ！

中村 俺らの教室だよ。

奥田 え、なんで俺ここにいるの。

中村 運んできたんだよ。倒れてたから。

奥田 倒れてた。

中村 うん。

山田 校門の前で。

奥田 なんで？

山田 覚えてない？

奥田 全然。

中村 デモ隊と警官隊の衝突に巻き込まれたんだよ。

奥田 俺が？

中村 そう。

奥田 なんで？

中村 知らないよ。俺と一緒にでたまま巻き込まれたんじゃないの。

奥田 中村も巻き込まれたんだ。

中村 それで、たまたま見てた山田がこっちに来たらって。

奥田 ああそう。

中村 ところ辺りから向こうの方までは道、ほとんど封鎖しちゃってるし。

奥田 ああ、そんなになんだ。山田は何やってるの。

山田 え？

奥田 さつきから、いやずつと気になってたんだけど。

山田 ああ。自由研究。

奥田 夏休みの？

山田 うん。

奥田 まだ終わってなかったんだ。

山田 まあね。

奥田 なにを研究するの。

山田 それすらも悩んでる状況。

奥田 そこからなんだ。

山田 だから悩んでるの。

中村 そんなのやめちゃえよって言ってるんだけど。

奥田 で、これがその残骸。

山田 そうそう。

奥田 すごいな。まあ中村の意見は聞かなくていいかもだけど。

中村 なんです。

奥田 やめたら先生に怒られるじゃないか。

中村 怒られないよ。怒られたって、どうせあと数日だろう。

奥田 そうなの。

中村 いやわかんないけど。でも今もうやってるだろ、採決。

奥田 え、あれ今日だっけ。

中村 今日だよ。

奥田 もう毎日やってるからわかんなくなってるさ。

中村 ああ、ニュース？

奥田 うん。ああそうなんだ、負けそうなんだ。

中村 負けそうって言い方もあれだけど。

奥田 え、なに。中村は賛成派なんだ。

中村 いや俺はどちらでもないよ。

奥田 ああ、言ってたっけ。

中村 言ってたよ。

奥田 ああ、そうか。そのデモ隊か。

中村 あ、気づいてなかったんだ。

奥田 まあ。

中村 気づいてなかったら逃げろよ。

奥田 ああ、うん。

中村 どうしたんだよほーつとして。

奥田 ああ。

山田 まだどつか痛むの？

奥田 ああ、いや。何かに気を取られたはずだったんだけど。

山田 巻き込まれたとき？

奥田 うん。中村。そのリコーダー何。

中村 ああ、これ。城ヶ崎さんの。

奥田 え、あの？あの学校一の美女の城ヶ崎姫子の？

中村 うん。

奥田 凄いな。なんで？

中村 放課後にリコーダーって言ったならあれしかないだろ。

奥田 凄いな。あれをやるのか。

中村 ああ、あれをして、あれするんだ。

山田 気持ち悪い。

中村 美学だよ。

奥田 すごいな。まさか本当にやる男子がいるなんて。

中村 男なら、やっぱり一度は挑戦しないと。

奥田 おまえ男だな。

山田 なんでもいいけど舐めるならどうか外でやってよね。

中村 なんて。

山田 見たくないに決まってるじゃん。

中村 う、うそだろ。

山田 いや、当たり前じゃん。何シヨク受けてるのよ気持ち悪い。

中村 やっぱり女つてのはロマンがわかってないよな。

奥田 あ。

中村 ん？まだやっぱり痛むの？

奥田 いや、リコーダーで思い出した。

中村 え、おまえは誰のリコーダーを？

奥田 いや、文化祭でみんなでリコーダー吹くんだったなって。

山田 え、みんなで吹くの？

奥田 え？

山田 え？

中村 え？

奥田 え？

山田 え？

奥田 ああ、発表の。

山田 ああ。びっくりした。

奥田 練習したのに、意味なくなるんだな。

中村 まあ、

奥田 いや、俺もどっちでもいいんだよ。正直。実感ないっていうか。どっちでもよくってさ。だけど、中学最後の文化祭ぐらいやりたかったなって。

山田 あれ、奥田バンドやるんだっけ。

奥田 ああ。それもなんだけど。

山田 ああ、それはちよつと見たかったなあ。バンドつて生で見たことないから。

奥田 そうなんだ。結構いいぞ。バンドは。

山田 へー。

中村 俺もやる気あったんだけどなあ。演劇。

山田 ああ、そういえば。何やるんだっけ。

中村 なんか小難しいの。

山田 やる気あったのに覚えてないんだ。

中村 うん。まあやる気なくしたっていうか。意味なくなってるって。

山田 ちよつとちよつてよ。

中村 え？

山田 演劇。

中村 やだよ。
山田 なんですよ。
中村 覚えてないって。
山田 なにそれ。
中村 仕方ないだろ。
奥田 俺も見たいなあ。
中村 ええ。いや、そんなこと言うなら奥田もバンド見せろよ。
奥田 それは無理だろ。楽器もないし。
中村 ああ。
山田 えー、どっちも見せてよ。
中村 無茶言うなよ。
奥田 (エアーで楽器を演奏する。口で音を出しながら)。
中村 なんだよ結局やるのかよ。
奥田 いや、雰囲気だけどね。この曲じゃないし。
山田 なにやる予定だったの？
奥田 ビートルズ。LET IT BEとか。
山田 へえー。
中村 あ、ほり、それ言うなら修学旅行。結局延期になって行けてないよな。
奥田 あ、そうだ。
山田 北海道行きたかったなあー。暑いし、雪、見たいし。
奥田 雪好きなの？
山田 え、わかんないけど。
中村 なんだよそれ。
山田 え、雪に好きとかなくない？
奥田 あるよ。
山田 えー。
中村 おい山田、雪はいいぜ。
山田 なんて偉そうなの。
中村 別に偉そうじゃないけど。わかるだろ。
山田 ええ？
奥田 でもロンチックだよな。
中村 何おまえO型？
奥田 違うけど、なんか駄目なの。
中村 駄目じゃないけど。
奥田 え、でもわかるだろ。
中村 まあ、うん。わかるな。
山田 なんなの。
奥田 消えてく雪と、積もってく雪と。風情があるよな。人生みたいで。
中村 おまえやっぱりO型だろ。
奥田 だから違うって。
中村 あれ、あれ、
山田 どうしたの？

中村 なんか急に不安になってきた。

山田 え。

中村 あれ、なんだろう。うわ、急に。

山田 急にじゃないじゃん。

中村 え。

山田 さっきだって、城ヶ崎さんに告白しとけばよかったって。未練たらたら。

中村 え、俺そんなこと言っただけ。

山田 言っただよ。

中村 うそだろ。本音かな。

山田 私に聞かれても。

中村 いや、でもそれは未練って言うか、願望だよ。

山田 意味わかんない。

奥田 いいなあ。俺も誰かを好きになっておけばよかった。

中村 うん？

奥田 そうすれば、なんか、もう少しドラマチックだったかもしれないのに。

中村 え、何、おまえってそういうタイプ。

奥田 なんだよタイプって。

中村 O型？

奥田 だから違うって。なんでO型にこだわるんだよ。

中村 なんとなく。

山田 でも私もそうかな。

中村 え、O型？

山田 いやいや。なんか、もう少し人生ちゃんとやっとならばよかったかなって。

奥田 人生はちゃんとやっとならばいい。

山田 いや、こんな状況でやり忘れた自由研究やってるし。

中村 それはそっちの自由だろ。

山田 まあそうだけど。

中村 人生とか言い出したら、なんかよくわかんなくなるだろ。

山田 そうか。

奥田 いやでも、わかんないよ人生。急に曲がり角なわけだし。

中村 ああ、まあそうか。

山田 曲がり角って言うか、急降下？

奥田 こう、急にガクッとね。

山田 ガクッとね。

中村 ガクッと。

山田 何言ってるんだろうね、ロクに人生歩んでないのに。

中村 人生語っちゃったよ。

奥田 ガクッと。

中村 十五年しか生きてない俺たちが。

山田 ませてるよね。

中村 自分だってそうだろ。

山田 あ、でも私早生まれだからまだ十四歳。

奥田 そうなの？

中村 先に言えよ。

山田 いやずつと昔に言ったし。

中村 知らないよ。

山田 つていうか覚えとけつて。

奥田 あれ、そういえば一年からずつと一緒だつて、三人。

山田 そういえば。

中村 そうだつて。

山田 そんなにしゃべつてこなかったからあやふやだけど。

中村 そうだった気がするな。

奥田 あ、ほら、一年の最初の頃、中村が先生に向かってお母さんつて言ったことあつたな。

山田 ああ、そうだそうだ。

中村 おいよくそんなの覚えてるな。

奥田 忘れられないよ。

中村 忘れろよ。

山田 小学生かよつて思った思った。

中村 いいだろ別に。

山田 しかも、小学生でも同じ事してたし。

中村 うそつてよ。

山田 あつたよ。お母さん。

奥田 あれ、そういえば、二人は帰らなくていいの。

山田・中村 え？

奥田 いや、家。こんなときなのに。

山田 奥田だつて。

奥田 俺はどうせこの時間家誰もいないし。

山田 そうなんだ。

奥田 山田帰らなくていいの。

山田 まあ自由研究ができたら。

中村 それ言つて何週間だよ。

山田 うるさい。暗くなる前には帰るよ。

奥田 そう。

中村 俺も部活つて言つてあるから、もうちよつとしたら帰るよ。

山田 大丈夫なのそれ。こんなときに部活あるわけないじゃん。

中村 それ言つたらこんなときに自由研究。

山田 ああはいはい。

奥田 何でできないの自由研究？

山田 え？あ、自由すぎて逆に、みたいな。

中村 そんなの言い出したら元も子もないだろ。

山田 え、わかんない。自由すぎて何書いていいかわかんないの。

奥田 まあわかるよ。

山田 だよな。ゆとり教育の弊害だつて先生に言つたら名簿で叩かれちゃつたけど。

中村 あきらめればいいんだよ。できないものは。まあ俺は始業式に出したけど。

山田 役に立たないし意見どうも。

中村 明日やろう明日やろうの積み重ねだからな。遅れるってのは。

山田 いやいや、それだけじゃないから。

中村 言い方が悪かったかな。いいんじゃない。明日やれば。

山田 同じことでしょうが。

中村 違うよ。全然違うよ。

山田 まあ、正直、自分でもなんでこんなことに固執してるのかわかんなくなってきたんだけどね。ニユースで、もうわけわかんなくなってる人が増えて暴徒化してますとか言ってたけど、こんな感じなのかな。

奥田 それとはまた少し違うんじゃない。

山田 そうなのかな。わかんなくなってるんだよね。わかんなくなっていくか、どんどん、理由とか、意味とか、思い出せなくなってきたらどうかっていうか。

奥田 どういうことか。

山田 ううん、いや。

中村 思い出せないってことは、どうでもいってていっていかまよ。

山田 そうかな。

奥田 いやいや、そうとは限らないって。

中村 なんですだよ。大人になったとき、きつと覚えてることを忘れてるのと、差がついてさういふことかと思っぞ。

奥田 でも今とは違う状態だろ。それはまた別の話だつて。

中村 そうかな。

奥田 忘れたこと全部どうでもいいことなんて嫌だろ。

中村 人それぞれだろ。少なくとも俺が忘れたこととはどうでもいってんだよ。

奥田 ちよ、なにしてんの。

山田 もういいかな。

奥田 え？

山田 いや、なんか全部ばかりしくなつて。

奥田 おいおい。

山田 大丈夫大丈夫、これ使わないヤツだから。

奥田 おう。

中村 だから最初からやめとけばって言っただろ。なんだよ。

山田 別に。中村って、昔自分がどんなだったか覚えてる？

中村 え？

山田 いや、さっき私に言ったじゃん。昔から変わってるって。自分がどんなだったか覚えてる？

中村 え、いや、自分のことはよくわからないかな。

山田 奥田は？

奥田 え、俺？いや、俺も、あんまり。覚えてないけど。なんで。

中村 なんてそんな話するんだよ。

山田 別に。ただなんとなく、今話しておきたかっただけ。

中村 なんだよそれ。おい。

山田 うるさい。

中村 何、キレてんの。

山田 キレてないし。

中村 キレてるだろ。

山田 はあ、なにキレてないのにキレてるよかじつてんの。

中村 キレてるから言ってるんだろ。

山田 そっちだつてキレてるじゃん。

中村 キレてないよ。

山田 キレてんじゃない。

中村 キレてないつて言ってるだろ。

山田 キレてんじゃない。

奥田 おいもうやめろよ。

中村 こいつがだつてわけわかんないキレかたするから。

山田 キレてないつて言ってるでしよ。

中村 キレてるだろ。

奥田 やめろつて。無限ループだよ。

山田 だつて中村が、あんなわけわかんないこと言うからじゃん。

中村 はあ？

山田 なんて覚えてないことがいらないうこととか言うの？

中村 何が。

山田 大人になったとき、私たちのこと忘れてても、そんなこと言うんでしよ。

中村 だから大人になれないんだつて。

山田 なんてそんな悲観的なんだよ。

中村 何おまえ泣いてんの。

山田 泣いてないし。

中村 泣いてるだろ。

山田 泣いてないつて言ってるじゃん。大人になろうよ。明日とか、全部なくなっちゃうかもしれないけど、大人になつて思い出そうよ。

中村 え？

山田 不安だよ。みんな、死んじゃうかもしれないけど、そんなことわかってるけど、嘘でもなろうよ。

奥田 山田？

山田 戦争とか、なんか大人が勝手に決めてて、それをなんかみんなまで止めようとしてでも止まらなくて、でも私はなんか終わらない自由研究してて、結局自分がなにかわかってないけど、でもなんか、終わりたいつて思うじゃん。明日も会いたいつて思うじゃん。

中村 なに。

山田 何とか聞くな。自分でも何言ってるのかわかんないけど、でも、忘れていいことなんてないつて。ばか。

中村 ごめん。なんかごめん。

山田 なんかが余計なんだよ。

中村 ごめん。

山田 死にたくない。

中村 奥田、俺どうしたらいいかな。

奥田 俺に聞くなよ。

中村 なんかわからんけど、たまらなく、今山田のことを抱きしめたいんだ。

山田 近づくな気持ち悪い。あー最悪。

奥田 結局あれだろ。山田も中村に死んでほしくないってことだろ。

中村 そうなの。

山田 別に中村限定じゃ無いけど。みんなだよ。

中村 でもさ、山田、死ぬ死なないは俺がどうこうってことじゃないんだぞ。

山田 わかつてるよ。けど、だからって死ぬなって言いたいわけ。

中村 ああ、もうわかったよ。

奥田 もうそろそろ採決決まったかな。

中村 さあ。

山田 すぐ戦争になるの？

中村 さあ。さすがにすぐってわけじゃないけど。でもそれはいつちから攻めた時の話で。

奥田 結局わかんないんだろ。

中村 うん、まあそうなんだよ。

奥田 わかんないことで悩むのやめようぜ。なんかつまんないよ。

山田 奥田、いいこと言った。

奥田 自由研究で悩んでるやつに言われてもな。あ。

中村 どうしたの。

奥田 いや、思い出したんだ。

中村 なにを。

奥田 さつき、巻き込まれたテモ隊の中に、城ヶ崎さんいたぞ。

中村 え？

山田 反対派だったんだ。

中村 マジかよ。走ったら追いつけるかな。

奥田 いや無理だろ。

中村 くっそー。

山田 リコーダー持って追いかける気？

中村 あ。

山田 あ、見せてよ。

中村 え。

山田 リコーダー舐めるところ。

中村 やだよ。

山田 なんで。

中村 なんでそんなもの見せないといけないんだよ。

山田 今ふと見たいなって気になって。

中村 なんだよそれ。気持ち悪い。

山田 中村、それ自分に言ってる？

中村 どこに人の目の前でリコーダー舐めるヤツがいるんだよ。

山田 どこにリコーダー舐めるやつがいるんだよ。

中村 明日、明日見せるよ。

山田 絶対嘘だ。

中村 いやホント。約束するよ。

山田 あんた約束守らないじゃん。

中村 え？

山田 幼稚園のときにした約束覚えてないし。

中村 え、約束？したっけそんなの。

山田 したよ。

中村 え、待つて。待つて、今思い出すから。

山田 いいよ無理に思い出さなくて。

中村 いや大丈夫だよ。

山田 奥田、大丈夫？

奥田 え？ああ、大丈夫だよ。大丈夫。

山田 あー、やっぱり北海道行きたかった雪見たかったなあ。

奥田 あれ？なあ、これなんか雪みたい。

中村 え？

山田 あ、ホントだ。

奥田 なあ、これ雪みたいだよな。

山田 すげー。

中村 おいおいあんまり散らかすなよ。

山田 いいじゃんどうせ最後だし。

中村 えー。

山田 ほれほれ。

奥田 やっほー。

中村 それは山だろ。

山田 うるさい。

奥田 うるさい。

中村 おい、ぶっけるなよ。

奥田 やり返してしろよ。

中村 このやろう。

山田 お？負けたままか？それでも男か？

中村 くそが。死ね。

山田 死ねとか言うな。

中村 ごめん。

山田 嘘だよ。死ね。

中村 おまえなあ。

山田 うそうそ。死ぬなー！！

紙が雪のように舞う中、暗転。

幕。

【上演に関して】

- ※ 上演を希望される場合はその旨を「プロトテアトル」までご連絡ください。
- ※ 台詞の変更・追加・削除などは基本的に自由にしていただいて構いません。
- ※ 稽古場やワークショップでの使用はご連絡不要です。(でもご一報いただけると喜びます…。)

【連絡先】

プロトテアトル

e-mail: prototheater@gmail.com